

昭和18年10月1日（金）

晴れ。切手類請求、受取はミワさんも加勢して貰ふ。葉書1万あり。余、八千と封緘はがき五百を持販る。坊、途中で抱っこと称し駄々を捏（こ）ぬ。流汗、販りて身体を拭ふ。報告物概ね片付く。昨の注射にミワさん気分勝れず行かれざりし。今日は7時半より常会。ミワさん、森田さん列席。坊や7時に寝る。

昭和18年10月2日（土）

衡器検査員、中津局検査。明日当局に臨局の由。栄町局より電話あり。

昭和18年10月3日（日）

朝降雨、後霽れ。検査員11時頃臨局。1時半頃終了。昼飯馳走す。栄町局より自転車を借りて、検査道具を載せ来る。当局を済まして一ツ松行き。税務署へ提出の報告書を作成したる以外、仕事は出来ざりし。蚊帳を吊らず。

昭和18年10月4日（月）

昨夜蚊帳を廃せしも蚊に刺さる。それだけ涼しさ加わる。朝3時頃、降雨少し許りにしてやむ。切手類請求。10銭は6銭と4銭に、20銭は14銭と6銭に変更して寄越す。6銭のみ嵩ばる。坊理髪。漸く腹加減良くなり、便所に度々行かなくなる。ミワさんに汽車賃算定しやる。

昭和18年10月5日（火）

晴れ。天候漸く定まったらし。朝来パンを造り、お握り数十個調製。海苔巻き等、金光行き仕度に忙し。5時過ぎ夕食。坊や気が附いて食事の手伝ひに来る。7時仕度を

済まし、余手荷物提げて駅に向かふ。今夜英霊の凱旋に、多数官民集まり居る。待合室に少し許り居り、留守が気になり還る。紋平にて冬ネンネコ、坊やを負はる。荷物可なり重し。阿部さんの奥さんと云ふ人、克く世話して下さる。鯖、隣組より配給2尾。煮附けて持行かる。

昭和18年10月6日（水）

晴れ。10時過ぎ突然二郎来る。巖が来たりしものと思ひ、別に上がれともいわざりし。長崎へ行く社長と別れて、当地に来たりしものの如し。本年に入り五島に行く際、佐世保に一泊。光子を訪ねたるらしいが、其の際はどこにも立寄りざりし模様なり。巖を訪ふ不在。6時頃販宅の由に付き、夕飯を一緒に食べると謂ひ置いて販り来たれる如し。切手類受取りに出掛ける際、二郎も一緒に行き巖方を訪ぬ。上がりもせず立咄しにて戻り来る。6時40分頃より、巖と三人耶馬溪倶楽部に至る。資材なく断らる。筑紫亭は満員にて断られ茗荷屋に至る。酒や肴等、平常時より豊富に運び来る。酒も何程にても出す。勘定は30円を超えしものと思料す。10時半まで事務を執る。二郎蚊帳を吊る。

昭和18年10月7日（木）

快晴。握飯を食べ余は前日の粥を食す。次いで二郎巖を訪ふ。丹波栗を半分持行き、一升斗（ます）を残す。午後2時頃販る。巖此日、業を休み二郎と一緒に集金に出掛けたるよし。3時40分発にて福岡に行く。米二升程遣る。鞆に其の儘入れたり。此夜9時頃寝る。夜半目醒め睡られず。早く寝たる効なきに至る。

昭和18年10月8日（金）

朝パン数ヶを食べ、粥は前夜にて盡く。パンも今朝にて滅有。お握りは一ヶも手を付けざりし。切手請求に中津局行き。其の留守に、8時何分かにミワさん等販宅。坊を負ふて神様にお禮詣りに出掛けられ、古江鉄工所前にて逢ふ。坊や阿爺を需めて販る々と云ふと。余の土産、毛抜付き爪切り60銭。坊や玩具色々。旗日防空演、出勤の日。

昭和18年10月9日（土）

曇天。10日、小包梱包方講習を鶴居局にて開催。乙女局通信手、指導の任に中る。荒巻員をして出席せしむることとせり。栄町よりも荒巻姉出席の由なり。午後遂に降雨。号外万報30日発行分、8日配達を受く。10月1日より実施のもの、適切（てつき）り中津局にて研究材料に保管したるものと解し、局長に抗議を持込む。反対に本省が遅らせる事実を知り、大いに恐縮せり。夜に入りて五号収集便に木札を提出の要否に付いては、主事に打合わす。

昭和18年10月10日（日）

水溜まり多く掃除見合わす。電気配電停止。神様の祭祀日。甘藷煮て下さる。夕食も甘藷を頂き、他の食餌を摂らず。2時より神詣で。如水局長、午前中臨局。部会長問題に余を推薦し来る。不可能を述べ断る。同氏は鶴居局に於ける小包包装講習に臨席せしらし。夕食甘藷にて飯食わず。曇り後、晴れ模様。

昭和18年10月11日（月）

午前午後共晴れ。荒巻さんの話に山口、如水は局長出席、事務員7名居れる由。日出夫坊来たり、窓口に頑張り迷惑す。今朝南瓜パン造り、又、坊の為甘くしたものを造る。甘藷二切れ残りあり。今朝も飯を食はず。道子よりの葉書に依れば、二郎9日朝福岡に行きしらし。「あれ丈でも助かった」と云ふ処から、米も多少少く持込みしものと思料さる。余に御馳走を吹聴したらし。道子等に、飯を食べに誘へしやなるも断りし由。各10円づつ三名に呉れたらし。坊昼寝、夕食後起こす。夜10時を過るも睡らず。

昭和18年10月12日（火）

昨快晴に引換へ、朝来曇り。一時晴れたるも午後は再び曇り。切手代払込ミワさん、受取は余行く。朝坊を連れ中津局を前にし本町に出て、日の出町を通過し販る。此頃は陽射しあり。来たる28日、国債貯金講習会に別府行き、岩尾さんに指定す。27日まで錬成会出席、前田さん入れ代わりて、岩尾さんが別府に行くこととなる。道子澄子より葉書、各通到着。ミワさん発送の手紙と行違へとなる。夕食うどん頂く。

昭和18年10月13日（水）

如何なる調子か、午後4時頃腹痛を覚え便所行き。其の後も多少痛みありしも、甚だしからず癒る。パン、甘藷3つ4つ貰ひ来られしものを加え、造らる。朝は前残りうどんを食したるも、別に悪くなり居らざりし。道子より峯母堂を佐世保に見舞に行くこと、可否を照会越しに對し返事やる。此時、二郎が7日午後3時45分出発せしに、9日

朝その地に行きしこと不思議なり、米も「あれ丈けでも云々」とあるからには、少なかったと云ふ意味らしいが、鞆に張切れる位、三升以上はやったのだと通告せり。此日晴れ。母堂風邪、早く寝らる。活動写真を観に森田さんと行かる筈を、森田さんのみ行かる。(愛機、南に飛ぶ) 映画名称。

昭和18年10月14日 (木)

快晴。一昨夜は蚊帳吊りしも、昨夜は吊らざりし。蚊は一二匹居りし如し。坊や、余中津局に切手を受取に行きたる留守、余の机に上がり、万年筆を弄び二本を台なしにせり。ペンチで修理せしもだめなりし。日出夫ちゃんを引入れ遊ぶ。裸跣にて上がり込み途方に暮る。折角日出夫ちゃんを逐出しても坊や大變。日出夫ちゃんと叫ぶ。表に出されば何しに行くか分からず。其の都度連れて戻り、足を洗い手を洗ふてやる。何度仕事を中止したか知れぬ。表の水槽にて水弄びする。午後7時頃より降雨。坊や湯に行き、賑りに駅に寄り遊びて来る。雨は少時にして歇む。道子より小包。広告通りの梱包に、解くに非常に手数かかる。

昭和18年10月15日 (金)

母堂朝飯は旨かりし由なるも、午後より発熱38, 5となり就寝。午前中坊のパン造らる。夕食は召上がらず。ミワさん母堂の傍らに休まる。余坊を側にし休む。夜半39度に達す。夕方清松医かかり行き、往診を求めらる。明朝行くとて頓服二ヶ40下さる。水にて冷やしたるも一向下降せず。此日ミワさん、積立貯金小児保険等に活動。先月は一ヶ月にて百円突破に過ぎざりしに、本月は半月に

して百円突破の成績を収められたり。成功と称すべし。

昭和18年10月16日（土）

臨時靖国神社大祭。両陛下、御行幸啓のよき日。一般官員に休暇を賜る。此の朝、清松医かかり行き往診を請ふ。9時頃和服姿にて来診。朝37，5に降下。注射して行かる。粥食を一椀召上がらる。夕食に魚など色々雑種取混ぜ煮て、大方自分独りで食べらる。我等も粥一色で済ます。向への肉屋より売出の旨、申来りしも、買わざりし。坊金槌にて襖を叩き破り「ここ破った」と指示す。母堂の蒲団の上から馬乗りになり、頭の上から寝巻をかけ乱暴至らざるなし。食事中、余の膝上に上がり、すべって角の食卓に転び、顎を打って下唇より出血す。母堂夕方36，5、平熱に下降し、ミワさん感喜、較ぶるに物なし。流汗、着衣を濡らすこと二度。八重子来たりしも、夫れは知らざりし。

昭和18年10月17日（日）

神嘗祭。曇り、後雨。3時頃より再び曇りの儘、日暮る。午後1時頃先生見えらる。此朝、母堂吐瀉物、色鮮やかき為、胃液と信じたりしに、今夏頃より胃部痛みあり。皆に心配かけるを惧れて話さざりしと。先生に話せば、それなら病氣は胃潰瘍なりと。そこで後刻、看護婦を食塩注射及び心臓の注射を行ひ、胃部を冷却し脚背中に湯煖房を入れ、一週間断食せよと。前日迄の注意手当と全然違ふこととなる。3時過ぎ巖来たり。振替三千余円持来。八重子里販り、お祭りらし。鮮魚、闇で買って土産に持行くと。坊や午前中寝る。夕方東京峯敏子さん、大阪甚さん、佐世保中尾宗一さん及び道子へ葉書出し、澄子の

手伝いを求む。

昭和18年10月18日（月）

昨は食塩注射約一升。母堂腹痛を感ぜらる。朝看護婦注射に来る。痛み止めのもの。葡萄糖は入手困難の由なるを、強いて毎日注射方求めらる。余にも頼む様、慫慂す。午後、看護婦食塩注射に見ゆ。此日ビルマの勇士、同僚の遺骨を抱きて中津に来るを機とし、ビルマの話聞く。昨夜は遂に行かず。此日行かる。其の留守の間に看護婦来る。余手伝い、注射の跡は温湿布で傷口を包む。目下ビルマでは、日本軍は重要塞を捲席しに進軍しつつあり。臙（やが）て印度との国境から進撃するだろう。随分大戦になる予想であります、など咄し居れり。20分間程揉みてやめたり。ミワさん帰り、詳細説明を聞く。余は母堂の部屋に、ミワさんは母堂の傍らに寝らる。余は母堂の部屋に寝る。夜半余の許に、ミワさんが心配そうな咄をさる。余は心配なしと相手にならざりし。午前3時起床。4時に母堂訪ふに、將に緯（こと）切れんとする刹那なりし。驚きて水を含ましむ。4時50分緯切れし。

昭和18年10月19日（火）

電報を大阪に至急にて、6時他は普通にて、東京、佐世保に、二郎にもやる。巖には夕方話す。此朝、坊や10時頃まで寝て居る。昨夜11時まで二階にて遊ぶ。妹の君、夜行軍の為、森田さんも起きて居られたもの。班よりは大勢悔やみに来たり。役場に手続きに行くもの、棺屋に走るもの、消毒液及び脱脂綿を求むる者、夫々斡旋さる。坊主来たり読経す。道子澄子来る。此の時は坊主来たり居る。隣組夕方販り、8時頃再び集合。賑やかに夜とき

す。巖も来たり。真宗の経を高唱す。局員も皆居残る。森田さん父様見えらる。鍊成会出席の為なり。

昭和18年10月20日（水）

切手請求。此朝早く森田巖父販らる。中尾宗一氏夫婦、子供連れにて来らる。午後1時40分、甚十郎氏見ゆ。朝来曇り。夕方、栄町長悔やみに来て下さる。昨吉富町局長、行橋にての国債貯金講習に出席の為、時間に余裕あり立寄らる。地況証書提出期が判明す。漸く電信特殊引受に対し調査す。昨東京敏子さんより電報。主人と共に今夜出発すとあり。折角決めた日取りを変更。21日葬儀となる。通夜は我等のみにて営む。終列、昌成氏来。

昭和18年10月21日（木）

昨曇天の儘経過、今日も曇天ながら無事過ぐ。葬式の日、余理髪35。市役所より祭壇を拵えに来る。40円かかる。8円払戻し来る。これは、棺代金等こちらで求めた分を差引したらし。3時近く竹屋で夕食を摂る。坊主は3名来る。皆配膳、坊さんは自宅にて賄ふ。局員も竹屋で食べて貰ふ。3時半より告別式は繰下げとなる。木下氏に通知して来て貰ふ。4時より霊柩車手押しにて来る。余等自動車にて焼場に至る。班の連中も見ゆ。班の人々と婦人組を自動車で販らし、昌成さん甚さんと余は徒歩にて販る。

昭和18年10月22日（金）

10時着にて骨拾ひに昌成、甚さん行く。尼僧読経し呉る。午後、昌成さん夫婦別府行き。道子販宅。此の夜は急に少人数となり淋しくなる。甚さんミワさん座敷、余坊やを傍らに母堂の部屋に寝る。

昭和18年10月23日（土）

甚さん呼子に行かる。昨近所に廻礼を済ます。余風邪の気味あり、行かざりし。竹屋に夫々礼金を為せしに対し、返戻越す。余行きて戻して来る。此時、余の事務服に羽織を纏った姿は非礼として、澄子より小言を受く。ミワさん来たり。甚十郎をやるからとて、事務服から前垂れから帯をして居らぬ為に、どんな滑稽の姿が現出するの醜態を演ず。澄子憤慨、飯ると云ふ。道子来たりミワさんの態度を詰る。此等の場面を露呈して、甚さんに訴えるまでもなく、道子は飯り、今日甚さんは出発す。

昭和18年10月24日（日）

地況調書の作成に努力す。午後敏子さん別府より飯らる。昌成さんは郷里に直行。甚さんより電あり。午後6時30分までに東唐津に来たれと。途中、福岡拘（こだわ）りて拒否する如し。電文の書き方にて種々意見あり。

昭和18年10月25日（月）

朝来降雨。午後零時の汽車にて遺骨を携え、ミワさん敏子さん出発。午前中、片身分け。道子に紋付き羽織外一点、余にも何か振当てらる。澄子には敏子さん10円下さる。余厚く礼を述ぶ。坊や澄子駅に送る。余は四千元の通常払いの某を訪ふべく、豊田町1丁目に行く。魚屋の前にて旅人宿から出てきた人に尋ねたら、魚屋を指さした。忙しく働いて居た主人公の前で怖る々々尋ねたら、人相の悪い主人公は更に裏を指示した。宿屋の前から裏長屋を尋ね廻り、其の家に立寄った。主人公は豆の莢から豆を剥がして居た。余は諄々と定額貯金を薦めた。阿

爺午後に申上げると云ふ。其の含みで販局。後刻、名義人自ら来たり三千円丈け定額貯金することとなる。此の日より前田さん、宇佐西光寺、坂元先生の講師で修養会開催に参加。27日販局の筈。次いで28日、岩尾さん別府に於ける国債貯金の指導に行くこととなる。此の日雨模様。午後より次第に霽れ。

昭和18年10月26日（火）

呼子に於ける本葬の日。天気は珍しき快晴。坊や寝小便す。丸通より債券購入方申出あり。結局、局窓口売り報国30枚、隣保班用50円国債10枚を斡旋す。650円となる。逡信局へ電報す。切手類請求及び受取に行く。

昭和18年10月27日（水）

快晴。此日夕方ミワさん販る筈。然るに8時頃、唐津より電話あり。橋本主事宅に一泊のこととなると。此日前田さん修養会より販る。丸ツより650円小切手にて送付あり。

昭和18年10月28日（木）

ミワさん午前中販る。午後小切手を現金に換えるべく、事務室に来たりしに、小切手所在不明となる。給料分配。岩尾さん別府行きは、昨夕出発さる。小切手は搜索するも不発見。

昭和18年10月29日（金）

曇り。鼻水出て困る。昨福田准尉訪ねて見えらる。ミワさん居らず。余挨拶す。ビルマに行くと。同氏辞去後ミワさん販局。停車場へ送らせたり。一先（ひとまず）別府へ行くらし。澄子明後日販ると云ふ。これも昨日の出来

事なりし。本日澄子にワンダラー遣る。馬肉は昨日求め百匁を巖方に持行く。餅、御馳走になり来れる由。岩尾さん本朝別府発、10時過ぎ来局。

昭和18年10月30日（土）

晴れ。請求せず。老母の裕を余の着物にと、敏子さん諒解を得て、蔵って置かれたものを澄子に仕立て直して貰ふこととす。風邪引き直したる感あり。右の扁桃腺膨れ上がる。丸ツ交付650小切手、遂に発見せず。

昭和18年10月31日（日）

10時頃、巖良助を連れて来る。和博悦子も来る。良助、各港航路来着途中、敵潜艦の襲撃を受け、身を以て免れ返ると。昼飯味付けにて皆に馳走しやる。庄花屋、町内会長さんの妻君、昨朝逝去。本日午後4時より告別式。ミワさん入れ歯抜き出て、澄子虫歯にて角野歯科医かかり行き、4時の告別式までに診て貰ふ。澄子神経をとられる痛さから診て貰はぬと主張せしが、余り薦めらるる儘行く。神経とらぬともよし。明日一回で補修すと云はれたる由。此夜貢に手紙書く。扁桃腺の為め調子悪し。